

〈5〉工事発注で施主が心得るべきこと

わかる！
コンクリート

当連載では、ひび割れないコンクリートのつくり方を指導する専門家・岩瀬文夫氏が、コンクリートの基礎知識を分かりやすく紹介する。今回は、強固なコンクリートの工法で建築を発注するに当たり、それに伴う手間や費用の増大に対する理解など、施主が心得るべきことについて解説してもらった。

完成後の検査は重要

食品や家電など物を購入する場合、商品の特徴が明らかだと、購入者はそれを基準に何を購入するかを決めることができます。一方、一見したところ品質や性能が同等の商品が複数あると、メーカーの信頼性も影響するのですが、

購入者としては、やはり価格を基準に購入する商品を決めたいものです。特に予算が厳しいと、つい安いモノを選びたくなるのですが、いざ購入してみたら粗悪品で結局は損をしたという経験をお持ちの方も少なくはないでしょう。

コンクリート工事について

も同じことが言えます。コンクリートは、セメントが入ってさえいれば固まらないことはありません。そのため誰がつくってもつくり方が違って大差がないように思われているようですが、実際には材料や施工法で品質にとても大

きな差が出ます。材料の質を落とし、作業員の数を減らせば安くはなりませんが、それに伴いコンクリートの品質も落ちていきます。丈夫で長持ちするコンクリートをつくるためには、適正な材料と丁寧な作業が必要なのです。

現在のコンクリート工事の

価格には、過度の価格競争で本来省くことができない作業までもが省かれた「不当に安いもの」もあるようです。これは、完成後に建物のコンクリート品質の検査が行われていないことに大きな原因があると、私は思っています。

省ける作業はできるだけ省

きたいと思うのは当然です。しかし、それが行き過ぎると、本来必要な作業までもが行なわれなくなり、検査が行なわれないわけですから、行き過ぎた作業の省略があつても分らないのが現状です。そのため、コンクリート工事を発注する際には、価格だけでなく、工事の内容についても問う必要があるのです。

施主の理解が不可欠

具体的な工事内容については、第7回で扱った予定ですが、詳しくは触れませんが、一般的な施工法と比べ、適正な材料を用い、鉄筋や型枠を強く固に組み立て、適正な施工法を採用した場合、住宅では躯体工事の価格は1割程度上昇するようです。もちろん条

件次第で、価格の上昇率は変わります。

施主としては「ひび割れないコンクリートを要求して当然なのだから、当初の契約金額でつくってもらわなければ困る」とも言いたいところかも知れません。しかし、作業に見合った予算を提供することは、皆が気持ちよく作業できる環境をつくることであり、それは施主の果たすべき役割でもあるのです。

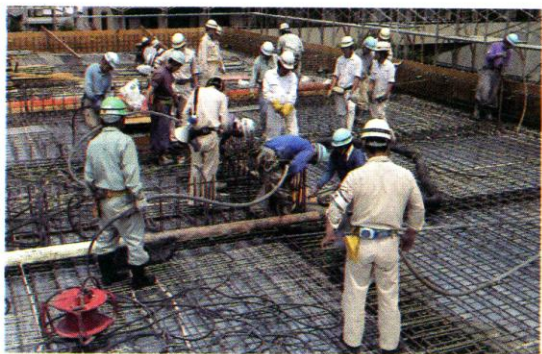
建築会社を選ぶ際は、これまで工事を行った建物であれば、竣工後10年以上経過している物件を、自分の目で確認することが大切です。建物の出来で、建築会社の技術力を見極めるのです。

(岩瀬文夫/株総合コンクリートサービス代表取締役)

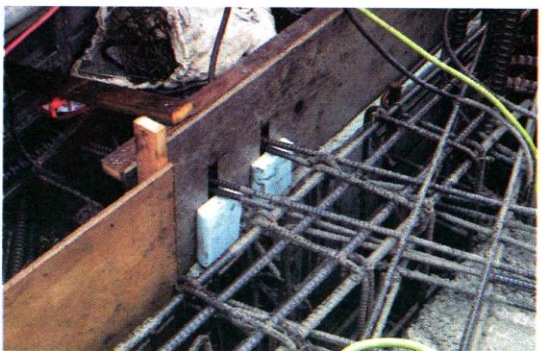
毎月第2金曜日に掲載



耐久なコンクリートを作るための、打設前に入念な打ち合せ。施主は必要な予算や工期について理解し、作業員が気持ちよく作業できる環境づくりをすることが大切



水の少ない固い生コンを打ち込むために、通常よりも強力なバイブレーターを使って、多くの作業員が丁寧に作業している様子。一般的な現場では、作業員はこの半分以下になる場合もある



作業が間に合わず、生コンが漏れ出さないように応急処置した型枠。作業員は現場の状況の変化にも対応しなければならず、作業に見合った工期を確保する必要がある

【いわせ ふみお】1947年生まれ。コンクリート主任技士。「コンクリートのひび割れは、正しいつくり方の実践で解消する」という持論の下、全国各地で講習会を開催。主な著書に「ひび割れないコンクリートのつくり方(日経BP社)」など。
株総合コンクリートサービス <http://www.sc-con.com>